

モデル化と要求開発

| | |
|------|-------------------------------------|
| 担当教員 | 伊藤 恵 |
| 対象 | 学部 3 年生 |
| 科目群 | 情報システムコース専門選択科目群, 高度 ICT コース専門必修科目群 |

授業概要

より良いソフトウェア開発のためのモデル化技法や要求開発方法論 (Openthology) 等の各種技法について、具体的な例題を用いた実習を通じて学ぶ。
本授業は、要求開発について実務経験のある外部講師が、要求開発の事例紹介やケーススタディ演習を行う。

キーワード

要求分析, 要件定義, モデル化, 要求開発, システム開発

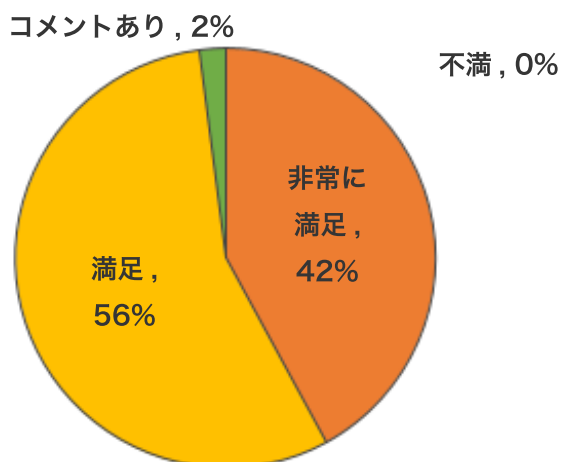
到達目標

1. 要求開発の概念と進め方の理解
2. モデリングの概念と基本の理解
3. モデリングから実装への移行の理解

授業フィードバックアンケート結果

授業満足度

| | |
|--------|-----|
| 非常に満足 | 42% |
| 満足 | 56% |
| コメントあり | 2% |
| 不満 | 0% |



授業フィードバックアンケート結果

来年度以降も続けてほしいこと (抜粋)

- 学生同士での話し合いによる要求開発は、プロジェクト活動でも活かすことができる能力が身につくため、特に続けたほうが良いと思います。
- 講義全体を通して、グループ活動でのモデル化を実際に学生で考える時間を与え、その後に解説を含めるという、だれもが意見を出し合い、頭に定着しやすくなるよう考えられた講義だと感じました。
- 前半のグループワーク、後半のモデリング演習のどちらも続けてほしいです。特に画面遷移図や ER 図からシステムを生成するということは他の講義では学べないものだったのでとても良かったです。
- 難しい課題でも仮提出をすることにより、教員からのフィードバックを受け、理解することができた。また、質問はいつでも受け入れるスタイルがとてもいいと思いました。
- オンデマンド授業と対面授業をうまく取り入れていた点は良かったと思いました。
- 授業動画を残すということ。後半の演習課題に取り組む際は、授業で説明されたことを聞き直したいことが多々あったため、対面とオンラインどちらの授業形式もあること、対面の必要がないときはオンライン参加もできる点がよいと思ったため。

履修者から後輩へのアドバイス (抜粋)

- 前半のグループワークはグループで協力して取り組めば問題ない難易度です。後半のモデリング演習はコードを書かなくてもシステム生成ができるというのが面白いと思うのでおすすめです。
- 要求分析や UML によるモデル化など、いわゆる上流工程についてを演習中心に学ぶことができます。ソフトウェア設計論の延長のような講義なので、UML の知識があるとスムーズに演習を進められ、また、コーディングは一切しないので、プログラミングに苦手意識のある人でも大丈夫だと思います。
- 外部講師の方の指導をもとに行う要求開発演習は実践的なものを学べるので、とても有意義な講義になる。また、グループで取り組む活動も多いので、協調性が重要になる。
- 演習が多いので、自分で理解しながら作業でき、とても良い授業であると感じました。前半にグループ演習があるので、そこでめんどくさいからと授業に来なくなってしまうと、他のメンバーに迷惑が掛かってしまうので、履修登録をし、グループが決まった際は、大学に来るべきであると思います。
- プロジェクト活動中の 3 年生だったら受けるべき授業だと思います。要求開発を学生同士で話し合って考えることで、前半のプロジェクトの自己反省や、今後のプロジェクトへ活かすことができる能力を身につけることができます。

担当教員インタビュー

- Q** この授業を設計・実施する際のポイントを教えてください。
- A** 前半の要求開発パートは専門性の高い外部講師の方に協力いただいております。より良い授業にするために毎年講師の方と相談して進めています。後半のモデリングパートは普段学生が接する機会の少ないコード生成を導入し、その体験を通じてモデリングについて学ぶという形式にしています。
- Q** この授業で特に気をつけているところは何ですか？
- A** 前半はグループ演習のため、グループ分けやより良い演習にするためのツール選定などに気を付けています。後半はコード生成ツールを使用しますが、モデリングの本質ではない環境構築に時間が掛からないよう、独自の動作確認環境を受講生全員に提供することでモデリングに注力し易いようにしています。
- Q** この授業の履修者、またはこれから履修しようと考えている学生へのメッセージをお願いします。
- A** 例年、月曜 1 限ということで対面での出席が辛いという話もチラホラ聞きますが、がんばって起きて行ったかいがあったと思えるような、実のある授業を目指しています。